

～チャレンジ桜井～



思いやりをもって、スマホとつき合う大切さ

児童支援専任 遠藤 仰

夏休み前、6年生の子どもたちと、スマホの使い方について、話す機会がありました。子どもたちの普段のスマホ事情を聞いていると、やはり未熟さが感じられます。その時は、スマホを使っていく上で大切なことは、普段の生活と同様、「思いやり」や「気遣い」であることを確認しました。メッセージの最後に「返信不要です。」と添えるとか、リプライ機能を使って内容を分かりやすく整理するとか、相手の着信音が鳴らないリアクション機能を使うなどの具体的な方法を紹介しながら、友だちが返信に追われることのないように配慮する大切さを話しました。勿論、スマホを持つ、持たないについては、各家庭の考えがあり、周囲がもっているからという理由で、焦って持つ必要はないことも伝えました。

さて、このスマホ問題で、私たち大人がすべきチャレンジは、一体どんなことでしょうか。いつからスマホを持たせるか、約束事をどのように決めるか、約束を守れなかったときはどうするか、フィルタリングはどうするかなど、親として頭を悩ませることは多いかと思います。

スマホの普及当初、警察の方から、「子どもにスマホを持たせるときは、初めて包丁を使わせるときと同じように。」という教えを受けました。スマホは包丁のように直接的に切れるわけではありませんが、時として、人生を台無しにしてしまうほどの切れ味を発揮してしまうからです。子どもに包丁を持たせる時は、手取り足取り丁寧に教え、怪我をしないように見守ることと思います。この「丁寧に教え、見守る」ことが、私たち大人のチャレンジではないでしょうか。スマホのHow toのみを教えるのではなく、何のためにスマホを使うのか、親としてどのようにスマホとつきあってほしいのかをぜひ伝えていただきたいと思います。また、包丁の使い方を教える時は、いきなり物を切るのではなく、包丁の持ち方、逆手の添え方から丁寧に教えることかと思っています。まずはフィルタリングをしっかりとかけ、家族間のやりとりの中で、思いやりのある使い方を教えていくことが大切かと思っています。

同時に、子どもは、自分の親のことを本当によく見えています。ぜひ、ご自身のスマホとの付き合い方についても、一度見直す機会があるとよいかと思っています。

長い夏休みが終わり、子どもたちの元気な声が校舎に戻ってきました。まだまだ暑い日が続きそうです。熱中症予防の声かけをご家庭でもよろしく願いいたします。子どもたちの安心・安全をご家庭と一緒に見守りつつ、たくさんのスマイルが見られることを楽しみにしています。

